

第11課「霊の結ぶ実は義」

日曜日「義の必要」

私達の身のまわりにある殆ど全てのものには製造されるとき規格、基準があります。「義」と訳されているギリシャ語には基準に合うという意味があります。その基準は御言葉、神の掟です。

月曜日「DIY(自作)の義」

自分の努力で神と調和しようとする事についてE・G・ホワイトの勧告。「自分の行為によっておきてを守り、清くなろうとしている人は、不可能なことをしようとしているのであります。人がキリストなしにすることはすべて利己心と罪に汚れています。信仰によるキリストの恵みのみが私たちを清めるのです。」希望への光（キリストへの道）1954

マタイ23：25－28には「外側はきれいにするが、... 外側は美しく見えるが、... 外側は正しいように見えながら」とあります。外側ではなく内側（心、動機）が神の御言葉と調和していなければなりません。外側とは儀式的な細かいこと、形式的なこと、人の目に触れる行為です。

火曜日「私たちの義、キリスト」ローマ5：17

「私たちは罪深く汚れているので、清いおきてに完全に従うことができません。神のおきての要求に応じるほどの義を持ち合わせていません。けれどもキリストは、私たちのために逃れる道を備えてくださいました。キリストは、この地上で私たちがあわねばならない試練と誘惑のまっただ中で生活し、罪なき生涯をお送りになりました。そして、私たちのために死に、今や私たちの罪を取り除いて、自己の義を与えようとしておいでになります。もし自分をキリストにささげ、キリストを自分の救い主として受け入れるならば、その生涯はこれまでいかに罪深いものであっても、彼のゆえに義とみなされるのです。キリストの品性があなたの品性の代わりとなり、神の前に全く罪を犯したことの無い者として受け入れられるのです。」希望への光（キリストへの道）1955, 1956

水曜日「義と服従」Iヨハネ2：29

「同じように危険なことは、キリストを信じれば人は神のおきてを守らなくてもよいという考えです。つまり、ただ信仰によってキリストの恵みにあずかるようになったのであるから、行いは私たちの救いと全く関係がないというのです。」希望への光（キリストへの道）1954

「私たちは服従によって救いを買うものではありません。救いは神から価なしに与えられる賜物であって、信仰によって受けるのです。服従は信仰の実なのです。・・・キリストを信じれば神に服従する義務はないという、いわゆる信仰は、信仰ではなく、臆測であります。」希望への光（キリストへの道）1955

木曜日「義なる生き方」

「こればかりでなく、キリストは私たちの心までも変えてくださいます。信仰によって、キリストは心のうちに住まれます。こうして、信仰と、たえずキリストに自らの意志を従わせることによって、キリストとの関係を持続するのです。このようにするかぎり、キリストはあなたのうちに働いて、み旨に従って志をたて、行うことができるようにしてください。・・・こうしてキリストが私たちのうちにお働きになるならば、私たちは、キリストと同じ精神をあらわし、同じ業—正しい行為、つまり服従をするようになるのです。」希望への光（キリストへの道）1956

「しかし、神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今は伝えられた教えの規範を受け入れ、それに心から従うようになり、罪から解放され、義に仕えるようになりました。」ローマ6：17, 18

**今週のポイント:**神の愛が心に宿るなら、喜んで心から神の戒めに従うようになります。それが義なる生き方です。「キリストへの道」の7章「弟子としての証拠」を熟読してみましょう。E・G・ホワイトは義と服従を同じ事と考えています。あなたも同じ捉え方ができますか。